

映画会 お知らせ

こどもえいがかい

開始 10:30~
(開場 10:15)

12/14(日)
『ふしぎの国のアリス』

12/21(日)
『赤鼻のトナカイ
ルドルフ物語』

1/11(日)
『日本の昔ばなし
耳地蔵 ほか』

1/18(日)
『ぼくは王さま
しゃほんだまとにちようび』

市民映画会

開始 14:00~
(開場 13:30)

12/14(日)

『モガディシュー
脱出までの 14 日間』

12/21(日)

『横道世之介』

1/11(日)

『アパッチ砦』

1/18(日)

『星新一の不思議な不思議な短編
ドラマ!』

新春スペシャル上映会

劇団四季ミュージカル
「思い出を売る男」
1/25(日)
14 時~(開場 13 時半)

図書館だより No.120 (通巻)

とこぶん通信

2025
2026
12・1



正月の羽子板
(個人蔵)



とこぶんさんぽ
所沢の伝統的なお正月

お正月の過ごし方は各家庭それぞれの習わしがあります。昔の所沢ではどのような過ごし方をしていたのでしょうか。

歳神様を迎える準備は、暮れのうちから始まり、家の周囲をめぐらす生垣、「クネ」を結い直す「クネ結い」や「煤取り・煤払い」等、を家族総出で行います。家の中がきれいになると 12 月 28 日頃に餅つきが行われます。ついた餅は鏡餅にして、歳神様、竈神様、井戸神様、屋敷神様、便所の神様すべての神様にお供えをします。人が食べる餅は、田んぼの少ない所沢では粟餅や漆餅などもたくさんついて、伸し餅にて初夏のころまで食べていました。

雑煮などの正月の儀礼食は、年男によって作られてきました。年男とは一家の主人や長男のことをいいます。正月の三が日は年男が朝早く起き、邪氣を祓うとされる若水を汲んで風呂をたて、心身を清めてから正月料理を作り、お供えの餅とともに歳神様にお供えします。三が日は、朝は雑煮、昼はうどん、夜はご飯というメニューで、これらの食事の支度はすべて年男が行っていました。

今では昔の伝統は失われつつあり、各々の家庭の事情にあったお正月行事を楽しんでいることと思いますが、昔の風習に思いを馳せてみるのもいいですね。

おはなしのへや

おはなし会

12/6 12/20
1/10 1/17



親子おはなし会

12/26 1/23

2 階おはなし会室にて
10:30~開始

CD & DVD 特集コーナー



2025↔2026
50 周年
アーティスト特集

1F 視聴覚コーナーにて展示中

【発行】所沢市立所沢図書館所沢分館 所沢市元町 27-1 ☎04-2923-1243

指定管理者：株式会社ヴィアックス

《参考文献》

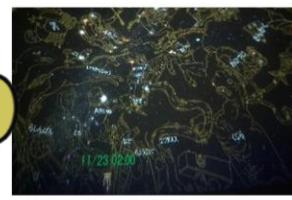
『所沢市史 民族』所沢市編さん委員会／編 所沢市 1989 年 <K/222/ト>

イベントレポート ほしざらのたまご ～所沢の星空案内～



部屋いっぽいに
膨らんだドーム！

元町の夜空
なんですか



11月22日(土)に「ほしざらのたまご～所沢の星空案内～」を開催しました。

エアドーム型のプラネタリウムの中に所沢市の星空を投影し、夏の大三角や冬の大三角、各星座の位置や名前を神話など交えて、解説者のかたからわかりやすくお話しいただきました。終了後のアンケートでも「星座に興味があったのでとても面白かった」「星座のことがよく知れた」と好評でした。

とこぶんからのお知らせ

とこぶん健康講座

けん玉で健康になろう！

日時・1月30日(土)

13:30~15:30

場所・一階多目的会議室

対象・中学生以上

申込・1月17日(土) 9:30~受付

図書館カウンターかお電話にて申込



「本の福袋」

1月6日(火)~1月11日(日)
テーマにそった本2冊を袋の中にい
れて貸出いたします。

中にどんな本が入っているかは開け
てみるまでのお楽しみ。
新しい本との出会いに、どうぞご活
用ください！

1日10袋限定
(6日のみ、12袋)

今年も豆本のおまけが
ついています。



『そして誰もいなくなった』
アガサ・クリスティー／原作
二階堂彩／漫画 早川書房 2025年
世界一有名なミステリー、『そして誰もいなくなった』が待望の漫画になりました。綺麗な絵と纖細な描写で、人物の心理状況が分かりやすく描かれています。

漫画ならではの表現方法もあり原作小説と読み比べるとより一層楽しめます。話は知っているけど読んだことがない」「読んでみたいけど時間がない」といった方におすすめです。



『平場の月』

朝倉かすみ／著 光文社 2021年

単行本刊行直後から、「大人の恋愛小説」と話題になり、山本周五郎賞受賞、そして現在実写映画が公開中の本作。

親の介護、離婚を経て地元に戻ってきた50歳の青砥。ある日、検査を行った病院の売店で、中学時代の同級生須藤葉子と再会する。彼女は青砥が初めて告白した初恋の相手だ。肝っ玉母さんのような強さ、「太さ」を感じさせる女の子だった。再検査を言い渡され、弱っていた青砥に、須藤はお互いを励ます、互助会みたいなことをしないか提案をする。会話を重ね、少しずつ近づいていく二人。その矢先、須藤のガンが判明する。

冒頭で、未来は明かされているため、読みながら青砥や須藤の取った選択について自分ならば、どうするだろうかと考えてしまう。最後の一文にこの恋愛の深さを感じた。



『平場の月』
朝倉かすみ／著
光文社文庫